



ご存じのように、今年は「弘法大師御誕生一千二百五十年記念」の勝縁の年であり、当山ではその記念の法要を四月二十三日に秘仏本尊をご開帳し、須磨寺では初めての「春の大祭」として執り行いました。

真言宗各派の総大本山でも大法会が繰り広げられましたが、殊にご誕生の地の普通寺では、須磨寺と同日の四月二十三日から六月十五日までの五十四日間、ご開創の地高野山では六月十五日を中心とした、五月十四日から七月九日までの五十七日間の記念大法会が執り行われました。

その普通寺の大法会では、真言各派の総大本山を始め「お大師様のご誕生をその地で祝いたい」という、全国各地の志を同じくした方々が登山され、毎日のように大きな法要が展べられ、私はありがたいことに神戸真言宗連合会会長として五月二日に、須磨寺貫主として五月二十九日に、普通寺の御影堂での法要の導師を務めさせていただきました。そして六月十五日、国際会館での「いろはまつり」でも会長として導師を務めました。また私の書いた「自利利他」、「自利」と「利他」の書が表装展示されると共に、その「自利」が白地に、

青葉の笛だより

第44号

令和5年7月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

「利他」が赤地にしるされた散華がまかれ、去年は声を出すことが出来なかった来場者の方々も今年は一緒に声を出して般若心経やご真言をお唱えすることが出来ました。私にとって、四月二十三日から六月十五日までの二か月は、「法幸此れに過ぐるものなし」との思いで過ごすことが出来ました。

八年前には「高野山開創一千二百年記念」の大法会で、高野山全体の本堂である金堂で導師を務めさせていただきました。十一年後の令和十六年には「弘法大師御入定一千二百年記念」の年を迎えます。その時は昭和五十九年と同様に高野山で長期に亘る大法会が執り行われると思います。間違いを起こさず元気でいれば、高野山の奥の院の灯籠堂で導師を務めることが出来ると思いますし、二年後に迎える古希を過ぎ、真言宗各派総大本山会のお許しがあれば、毎年一月八日から十四日まで京都の東寺(教王護国寺)で厳修される、真言宗の一大法要「後七日御修法」の大阿闍梨(導師)を務めることが出来ます。

夢のようなその日を迎えられるよう、自分を高める行い「自利」に努め、他者を救う行い「利他」に精進しなければと思っています。

今年も暑さが厳しいようです。どうぞお身体ご自愛ください。

大本山須磨寺 貫主

合掌

小池 弘三

十三佛に見守られて(18)

―虚空蔵菩薩

摩耶山天上寺貫主 伊藤 淨厳

十三仏の最後の仏である虚空蔵菩薩は、真言密教においては格別に重視されています。

一、尊名の由来とご利益

虚空蔵菩薩の「虚空」とは、広大無辺なる宇宙・大空のこと、「虚空蔵」(梵語ではアーカーシヤガルバ)とは、「虚空の蔵」、「虚空の母体」を意味しています。

かく、虚空蔵菩薩とは、この菩薩の智慧と慈悲との二つの蔵の無量なることを、虚空(宇宙)の広大無辺なるに譬えて表わした名前なのです。

要するに、虚空蔵菩薩は、宇宙的な無量の法宝(教えの宝)と福德智慧の恵みを所蔵し、衆生の諸々の所願に応じて、その恵みを自在に与えられます。即ち、それらの宝物を自在に施与して、衆生に無限の幸福を授けられるのです。

ところで、虚空蔵菩薩は、智慧や知識、記憶といった多方面にわたる現世のご利益をもたらす菩薩としても信仰されてきました。総じてこの菩薩のご利益は、左のごとく広く知られています。

学力成績の向上、記憶力の増強、頭脳明晰、技芸向上、智慧が無限にはたらくため商売繁昌・家運隆盛など

このように、具体的に即今に成就する現

実的なご利益は、多くの人々の心を引き付けます。

二、記憶力を増強するほとけ

虚空蔵菩薩といえば、「虚空蔵菩薩求聞持法」という真言密教独特の修行法が知られています。弘法大師が修法されたことで有名です。この修法はまず作法の伝授を受け、定められた真言陀羅尼を百日間に百万遍唱えろという行法です。この行を成満した修行者はあらゆる經典を記憶し、かつその内容を深く理解して忘れることがないと説かれています。

弘法大師は、出家の宣言書と看做される『三教指帰』を著わされ、その中でこの求聞持法の深遠な宗教体験を説述しておられます。

この修法で感得された弘法大師の神秘的な宗教体験はゆるぎなく盤石で、この時の不退転の決意は、その後の大師の多方面にわたるめざましい活躍となって結実したのであります。

三、智慧のほとけ―虚空蔵菩薩

十三仏の中の菩薩たちは、その自利利他のはたらきを理解しやすくするため「智慧の菩薩」「慈悲の菩薩」と分けて説明することが多いのです(釈迦如来、薬師如来、阿弥陀如来、阿閼如来、大日

如来の如来さまは、仏格も高く、高い境地に安住して、智慧と慈悲とを円満に具足しておおらかに説法されています。そのため、如来さまを智慧の如来、慈悲の如来と明確に決め付けてしまうには少々無理があります。

例えば、菩薩であれば、

智慧の菩薩―文殊菩薩、虚空蔵菩薩
慈悲の菩薩―観音菩薩、地藏菩薩

と分けられます(なお、普賢菩薩、勢至菩薩などは、時には智慧、時には慈悲の一面が強調されます)。

虚空蔵菩薩は、この二分法によって分ける時には、智慧の菩薩とされています。ちなみに、智慧の菩薩とされる文殊・普賢・虚空蔵は、それぞれ左のごとき智慧を授けてくださいます。

文殊菩薩―諸行無常、諸法無我、縁起観などを説き、理性的な「空」の智慧を授けてくださいます。

普賢菩薩―人として人生を全うするために、必要不可欠の智慧を授けてくださいます。

虚空蔵菩薩―広大な視野から学修したことを忘れることなく記憶し、学力向上の智慧を授けてくださいます。

四、十三仏最後のほとけ

十三仏の最後に、なぜ虚空蔵菩薩が配当されたのか、少し所見を述べておきます。

十三仏は、故人の中陰並びに周忌の法事の本尊とされ、初七日から三十三回忌までの期間回向が行われます。この

三十三回忌までに、亡き人のみ魂は虚空蔵を除く十二尊に見守られ、懇切な教えに導かれてきました。だが、三十三回忌ともなれば、不動明王の教え、阿弥陀如来の教え、大日如来の教えなどすべてを正確に覚えていられるとは思われません。そこで、三十三回忌に当り、虚空蔵菩薩が、それまでの仏さまの教えを決して忘却しないようにと強力な記憶力を授与され、二度と忘れ去ることのないように、再度故人を導いてくださるのです。

(ところで、虚空蔵菩薩がご本尊である三十三回忌まで、結構長年月を要すると思われがちですが、遺族には意外に短い期間であったと実感されます。昔は両親の三十三回忌を営むことができれば幸せ者だと言われたものです。今日、寿命百年の時代ともなれば、その気があれば、故人や先祖の回向を執り行いたいものです。)

(長い間、十三仏の拙い解説文をお読みいただき有難うございました。大本山須磨寺の小池弘三管長と小池陽人副住職の格別のご親切ご配慮に心から感謝申し上げます。)



四萬六千日燈明会 ゝみあかり観音ゝ



四萬六千日とは、観音様のご縁
日で、この日にお参りすると、四
萬六千日参詣したのに相当する功
徳を生ずると言われています。
須磨寺では、本堂において
初盆精霊供養の法要を執り行
い、引き続き境内にろうそく
で形つくられた巨大な観音様
のお顔、みあかり観音の前で読
経し、皆様方の所願成就・萬霊
供養をご祈念申し上げます。そ
の後、本堂前において和太鼓の
奉納演奏などの催しもございま
す。ご知友お誘い合わせてご参
拝下さい。

- 一、日 時 八月九日（水） 午後六時より
- 一、会 場 須磨寺本堂前
- 一、ご供養・ご祈禱料
- | | | |
|------|----|------|
| ろうそく | 一本 | 千円也 |
| 祈禱札 | 一体 | 三千円也 |
| 経木供養 | 一霊 | 三千円也 |

◎須磨寺本堂前寺務所にてお申し込み下さい。

夏・秋の行事案内

◆ 八月

- 九日（水） 四萬六千日燈明会 みあかり観音 〈午後六時〉 須磨寺 本堂
- 十一日（金） 十五日（火） 孟蘭盆会
- 十五日（火） 盆大施餓鬼法要 〈午前十時〉 本坊客殿
- 十七日（水） 青葉殿孟蘭盆会法要 〈午前九時・正午・午後三時〉 青葉殿
- 十九日（土） 盆大施餓鬼法要 〈午後二時〉 櫻寿院本堂
- 二十日（日） 盆大施餓鬼法要 〈午後二時〉 蓮生院本堂
- 二十日（日） 二十一日（月） 盆大師（ご縁日）

◆ 九月

- 二日（土） 三者三様法話会 〈午後一時〉 青葉殿
- 二十日（水） 二十六日（火） 彼岸会 特別護摩祈禱 〈午前十時・午後二時〉 護摩堂
- 二十日（水） 二十一日（木） 彼岸大師（ご縁日）

◆ 十月

- 十四日（土） 絵本テラピー 〈午後一時半〜午後四時〉 青葉殿
- 二十日（金） 二十一日（土） 大師縁日
- 二十九日（日） 須磨 夜音 音楽法要祭 〈午後六時〉 境内

◆ 十一月

- 二十日（月） 二十一日（火） 大師縁日
- 二十三日（木・祝） 秋の大祭 須磨の火祭り 柴燈大護摩供 〈午前十一時〉 須磨寺 境内



弘法大師御誕生 須磨寺 秘仏本尊



千二百五十年記念大法会 聖観世音菩薩 特別御開帳

去る四月二十三日（日曜日）に、晴天の中、弘法大師御誕生千二百五十年記念大法会を無魔厳修いたしました。約六千人の檀信徒の皆様にお参りをいただきました。

午前六時から大師堂において平座理趣三昧法要を厳修し大法会が開白。八時半から本堂において秘仏本尊御開帳が行われ、その後午後五時まで参拝者の方々が内拝をされました。本尊の御開帳は、四月三十日までの八日間にあたり行われ、約千四百人の方が入壇されました。十時からは、護摩堂前にて柴燈護摩を奉修。続いて十一時半からは、稲荷社前特設ステージにおいて小池陽人寺務長による辻説法が行われました。続いて、特別奉納として、須磨寺正覚院空手道場による空手の演舞、須磨寺こども長唄・須磨寺櫻壽院教室による長唄「元禄花見踊」、一絃須磨琴保存会による一絃須磨琴の奉納演奏が行われました。お昼をはさんで午後一時半より本堂において須磨寺御詠歌講により御詠歌が唱和される中、珠寶花士氏による献花の儀が行われました。同時刻、参道では、会奉行を先頭に稚児、職衆、導師らによるお練り行列が行われ、二十七名の稚児がご本尊に献花をしました。本堂濡れ縁での庭讃の後、入堂。小池弘三貫主が慶讃文を奉読し、宗祖弘法大師に報恩謝徳の誠を捧げ、参列者が献香しました。

境内では、念珠、塗香、ろうそくの製作体験、仏具販売、お寺巡り画家・尾中康宏氏による千手観音揮毫、災害救助大紹介などの特別ブースが設けられ、塔頭蓮生院においての阿字観瞑想体験、須磨寺大仏師山高龍雲師の工房での仏像展示会、キッチンカーの出店など多様なイベントが開催され、いずれも大勢の参拝者の方で賑わいました。

お参りくださいました皆様、お支えくださった皆様へ心より御礼申し上げます。

去る四月二十三日（日曜日）に、晴天の中、弘法大師御誕生千二百五十年記念大法会を無魔厳修いたしました。約六千人の檀信徒の皆様にお参りをいただきました。

午前六時から大師堂において平座理趣三昧法要を厳修し大法会が開白。八時半から本堂において秘仏本尊御開帳が行われ、その後午後五時まで参拝者の方々が内拝をされました。本尊の御開帳は、四月三十日までの八日間にあたり行われ、約千四百人の方が入壇されました。十時からは、護摩堂前にて柴燈護摩を奉修。続いて十一時半からは、稲荷社前特設ステージにおいて小池陽人寺務長による辻説法が行われました。続いて、特別奉納として、須磨寺正覚院空手道場による空手の演舞、須磨寺こども長唄・須磨寺櫻壽院教室による長唄「元禄花見踊」、一絃須磨琴保存会による一絃須磨琴の奉納演奏が行われました。お昼をはさんで午後一時半より本堂において須磨寺御詠歌講により御詠歌が唱和される中、珠寶花士氏による献花の儀が行われました。同時刻、参道では、会奉行を先頭に稚児、職衆、導師らによるお練り行列が行われ、二十七名の稚児がご本尊に献花をしました。本堂濡れ縁での庭讃の後、入堂。小池弘三貫主が慶讃文を奉読し、宗祖弘法大師に報恩謝徳の誠を捧げ、参列者が献香しました。

境内では、念珠、塗香、ろうそくの製作体験、仏具販売、お寺巡り画家・尾中康宏氏による千手観音揮毫、災害救助大紹介などの特別ブースが設けられ、塔頭蓮生院においての阿字観瞑想体験、須磨寺大仏師山高龍雲師の工房での仏像展示会、キッチンカーの出店など多様なイベントが開催され、いずれも大勢の参拝者の方で賑わいました。



去る、五月二十九日、弘法大師御誕生の地である総本山善通寺において、須磨寺派による弘法大師御誕生千二百五十年記念大法会を厳修しました。

導師は、須磨寺貫主小池弘三殿下、職衆は須磨寺派諸大徳、須磨寺諸縁の僧侶合わせまして二十六名の出仕により、大法要を無魔厳修することができました。

須磨寺派寺院の檀信徒約百三十名のお参りをいただきました。法要は、まず須磨寺御詠歌講による御詠歌が唱和される中、珠寶花士氏による献花の儀が行われました。導師、職衆が入堂し、平座理趣三昧を厳修。小池弘三殿下が慶讃文を奉読し、宗祖弘法大師に報恩謝徳の誠を捧げました。

お参りくださいました皆様へ心より御礼申し上げます。



総本山善通寺 弘法大師御誕生千二百五十年記念 真言宗須磨寺派大法法要



須磨寺の歴史〈三十二〉

― 須磨寺の本尊

令和五年は弘法大師空海の御誕生千二百五十年の記念すべき年であり、真言宗各派総大本山、並びに多くの全国の真言宗寺院で記念法要が厳修されました。須磨寺では四月二十三日に大法会を厳修し、秘仏本尊特別御開帳をはじめとした様々な行事を盛大に行い、大勢の参拝者の皆様が須磨寺に参拝されました。

当山の秘仏本尊は淳和天皇の御代に和田岬の海中で発見されたと伝承される聖観世音菩薩で、不動明王と毘沙門天を脇侍としています。実はこのような三尊形式でお祀りするのは真言宗の伝統には無く、天台宗の形式で、伝教大師最澄の弟子、慈覚大師円仁が観音・毘沙門の二尊を祀り、慈恵大師良源が不動明王を加えて成立したと伝えられていて、古代から中世までの天台宗の寺院ではこの三尊形式でお祀りされた例は多くみられます。

何故、真言宗の寺院である須磨寺で天台宗の形式で御本尊である聖観世音菩薩をお祀りしているのかというと、昔、須磨寺は天台宗の寺院であったからです。特に平安末に廃れていた須磨寺を再興した澄憲上人と源頼政は兩人とも天台宗に近い人物なので、この頃は天台宗と考えられますが、この当時の記録を見ると本尊として「薬師・観音両本尊」と書かれているので、この後が変わったと考えられます。また、観音信仰という西国三十三観音霊場が有名ですが、この霊場は花山法皇が再興したという伝承があり、その花山法皇の霊場再興に関わったのが天台宗僧侶の性空上人という方で、その方の影響で札所寺院では、天台宗の三尊形式が多いとのこと。須磨寺は西国霊場ではありませんが、同じ観音信仰の寺院として、須磨寺にも影響があったことが考えられます。

今回の須磨寺秘仏御開帳は、平成二十八年に神戸市立博物館で特別展「須磨の歴史と文化展―受け継がれる記憶―」が開催された際に記念して御開帳されて以来、七年ぶりの御開帳となりました。次回の御開帳はいつになるか分かりませんが、その時は是非とも須磨寺本尊、聖観世音菩薩と縁を結ぶためにご参詣いただきますよう、よろしくお願い致します。

蓮生院 九月から十月までの行事予定

写経・瞑想体験会

お寺で写経と瞑想の体験会を致します。気軽にできますので、写経・瞑想を経験したことのない人でも是非ご参加いただき、疲れた心を癒しにお越しく下さい。(写経のみ、瞑想のみの参加も可能です。足を組みやすい服装でお越しください)

日 時 九月三日(日)・九日(土)

十月七日(土)・二十二日(日)

十一月十一日(土)・二十六日(日)

十二月二日(土)・十七日(日)

写経会十四時～十五時半 瞑想会十六時～十七時半

(受付は三十分前から)

場 所 蓮生院本堂
参加費 写経五百円・瞑想千円

護摩行

毎月、二十一日十四時から厄除け大師堂で、二十八日十四時から蓮生院本堂で護摩を致します。お参りは自由なので、護摩行中はご自由にお入りください。

- 写経・瞑想体験会は事前申し込み制です。
- 数日前から発熱、咳、下痢、頭痛、息苦しさなどありましたら、参加はご遠慮下さい。
- 当日お昼までに蓮生院の寺務所にお申込みいただくかお電話でお申し込みください。
- 諸事情により取りやめになることがあります。

蓮生院電話番号 〇七八―七三一―二三一一

令和5年 年忌一覽

一周忌	令和四年亡	二十五回忌	平成十一年亡
三回忌	令和三年亡	二十七回忌	平成九年亡
七回忌	平成二十九年亡	三十三回忌	平成三年亡
十三回忌	平成二十三年亡	三十七回忌	昭和六十二年亡
十七回忌	平成十九年亡	五十回忌	昭和四十九年亡
二十三回忌	平成十三年亡	百回忌	大正十三年亡

≡正覚院 永代供養堂 仏明殿≡

落慶法要



須磨寺塔頭正覚院では、永代供養堂「仏明殿」ぶつみやうでんを須磨寺仁王門前に新たに建立致しました。落慶法要（令和五年六月三日）は梅雨時期にもかかわらず天候にも恵まれ須磨寺貫主小池弘三猊下御導師の下、式衆、丞仕、司会の合計十三名の僧侶と檀信徒約二百名ご参列のなか盛大に営まれました。当日は午後二時より須磨寺大仏師山高龍雲師が奉納された御本尊釈迦如来様の開眼供養、檀信徒各家先祖供養、納骨奉安法要を厳修致しました。法要後の式典では小池猊下より祝辞を頂戴し、お堂建立に尽力してくれた方々に感謝状の贈呈、代表して山高師に祝辞を頂きました。一絃須磨琴の奉納演奏で式典に華を添えてもらい最後は私の謝辞を以て落慶法要を無魔成満、致しました。

ここ、須磨寺は源平合戦で非業の最期を遂げた平敦盛公をお祀りする菩提寺として古くから多くの人々に親しまれてきました。近年ではお大師様の開かれた真言宗の寺院として毎月20、21日の御縁日にはたくさんさんの露店が並び、多くの参拝者で賑わっております。しかし、阪神淡路大震災をきっかけに人口減少、景気低迷、寺離れが進み、更には三年前の新型コロナウイルス流行に追討ちをかけられ参拝者が激減しました。

本年、弘法大師御誕生一千二百五十年の記念の年にあたり、新たに須磨寺門前にお堂を建立した事がきっかけとなり、昔の賑わいが少しでも戻ってきてくれたならと切に願うところであります。

又、堂内は仏様をお祀りしている仏殿と御遺骨を安置する納骨堂と二に分かれております。仏殿では位牌、過去帳の供養を日々、お勤めし、年忌法要、納骨法要、その他の法要（要予約）もご要望があればさせて頂きます。納骨堂は各家ごとに仕切りを付けた個別棚を四八〇棚設けており、永代にわたり御遺骨を安置させて頂きます。

最後になりますが仏明殿の完成に際し、ご尽力して頂いた全ての方々のご恩に報いる為にも、新型コロナウイルスの早期終息、世界平和、興隆仏法を祈念し、新しくお迎えした仏様の御加護の下、より明るい未来になる様、日々、精進して勤めてまいります。

南無釈迦牟尼仏 南無大師遍照金剛 合掌

正覚院 住職 朝倉経義

須磨の火祭り

須磨の火祭りは屋外での柴燈大護摩供で、この一年を無事に終えた事を仏様に感謝し、火渡りによって身を清め新しい年を迎えるために晩秋に行います。火渡り修行とは火生三昧ともいわれ、柴燈護摩の終わりに火の上を渡る荒行です。浄火により災厄を破り福を招くといわれております。特に来年厄年を迎える方は、厄難消除のために、火渡りをして身を清め、新年をお迎え下さい。

火渡りの方は当日お礼、行者手ぬぐいをお渡しします。

記

一、日時 十一月二十三日（木曜日）

午前十一時開白

一、会場

須磨寺境内

一、ご祈祷

※荒天時は、護摩堂にて
特別祈祷札

一、火渡り

一万円・三万円・五万円

添護摩木 千円

厄年特別火渡り 五千元

一、火渡り

一般火渡り 二千元（先着百五十名）

※火渡り修行は荒行です。多少のやけどもごさいます。

申込書の注意をよくお読みのうえお申し込み下さい。

一、お申し込み

須磨寺派各寺院にお申し込み下さい。



令和六年 厄年表

平成十八年生（女性）	厄年	平成二十二年生（男性）	小厄
平成五年生（女性）	前厄	昭和五十九年生（男性）	前厄
平成四年生（女性）	本厄	昭和五十八年生（男性）	本厄
平成三年生（女性）	後厄	昭和五十七年生（男性）	後厄
昭和六十二年生（女性）	厄年	昭和五十九年生（男性）	厄年
昭和六十三年生（女性）	厄年	昭和六十一年生（男性）	厄年
昭和三十九年生（女性）	厄年	昭和三十一年生（男性）	厄年

須磨 夜音 音楽法要祭

～真言声明と天台声明 平安の響き～

十月二十九日 十八時より、第七回となる

「須磨 夜音 音楽法要祭」を執り行います。「夜音 音楽法要祭」は、平敦盛をはじめとする源平戦士への供養と平和への祈り、そして度重なる災害における慰霊と復興の祈りを法要の趣旨としています。

法要の内容は、元ブルーハーツのドラマーの梶原徹也氏率いる「神紗」のドラム・和太鼓・舞・三味線の奉納演奏に加え、須磨琴の演奏とKiss FM神戸のサウンドクルー中野耕史氏の語り、そして今回は特別に天台聲明兵庫社会奉仕會と須磨寺の僧侶が共に声明を唱えます。天台宗の声明と真言宗の声明、宗派を越えて共に祈ります。法要の最後には、読経とドラム・和太鼓・舞がすべて重なり合い、祈りの世界を創り出します。

夜のお寺の幻想的な雰囲気の中、僧侶の読経と音楽が織りなす祈りの世界を体感して頂き、それぞれの人の心に響く法要にしたいと思っております。そして、お寺に足を運んで下さる多くの方々が、それぞれ平和について考える一つのきっかけとなることのできれば幸いです。是非ご知友お誘いあわせてご参拝下さい。



記

日時 十月二十九日（日）午後六時より

場所 出世稻荷前 舞台

入場自由